



森のなかま

2010年 6月号
NO.26 (継続171)

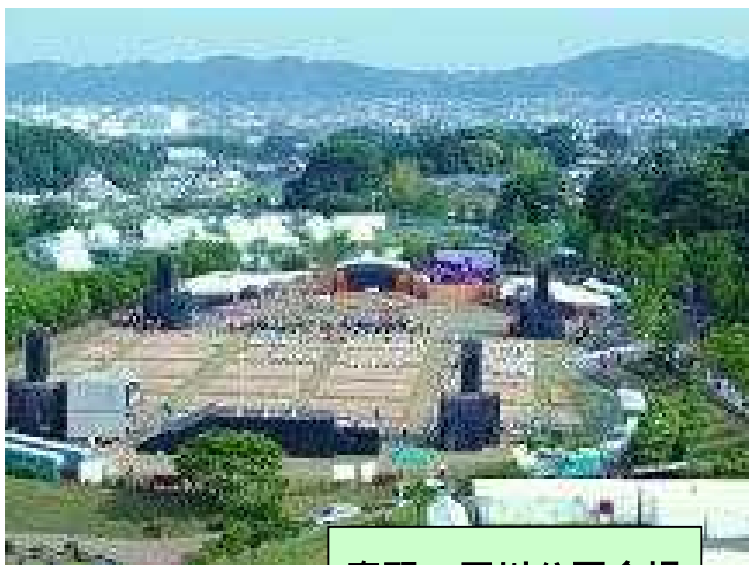
NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 島岡 功
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

21世紀の森林づくりへ大きな一歩

****緑の祭典「第61回全国植樹祭」開催****

会場 秦野戸川公園 / 足柄森林公園丸太の森 : 平成22年5月23日(日)

柏倉 紘 全国植樹祭担当理事



秦野・戸川公園会場

「森が育むあなたの心 森を育むあなたの手」の大会テーマを掲げ、天皇皇后陛下のご臨席のもと開催されました。

両会場には招待者約5,500名(県内4,300人・県外1,200人)が参加して(里)森の恵み豊かな落葉広葉樹林<アオダモ、アオハダ、クヌギ、クマシデ、ケヤキ、コブシ、コナラ、ホオノキ、ヤブデマリ、ヤマザクラ、ヤマボウシ>(照)四季を通じてうっそうと茂る照葉樹林<アカガシ、アラカシ、シラカシ、タブノキ、ヤブツバキ>(山)多様な生き物が生息する針葉樹が混生する広葉樹林<アオダモ、アオハダ、イタヤカエデ、クマシデ、ケヤキ、ホオノキ、モミ、ヤマザクラ、ヤマボウシ>(水)多様な

生き物が生息する針葉樹が混生する広葉樹林(湿潤地)<アオダモ、イタヤカエデ、イロハモミジ、キハダ、クマシデ、ケヤキ、ホオノキ>(人)森林循環を取り戻した持続可能な人工林<スギ(無花粉)ヒノキ(少花粉)>以上、23種の苗木が11,000本記念植樹されました。

また、神奈川県全体を全国植樹祭のステージとして、多くの県民の参加をえて「第61回全国植樹祭」で発信する“かながわ森林再生50年構想”の取り組みを広く理解していただくことを願ってサテライト会場での植樹等も行われました。県下13か所のサテライト会場では約145,000人の参加者が22,000本の苗木を植えました。

今回の全国植樹祭を契機として、県民参加による神奈川の森林づくり活動がより一層発展することを願わずにはられません。

平成2年に端を発した「県民参加による森林づくり活動」は、多くのボランティア有志によって引き継がれ、現在まで延べ人数5万人を超えるまでにのぼっています。これは、多くの県民の方々が森林の



大切さを認識されて行動に移されていることに他なりません。

アトラクションで演じた、かながわダンスキッズの小中高生 150 人によるダンスパフォーマンスで「みらいは ボクらに まかせて！」の元気いっぱいのメッセージに胸の高鳴りを覚えました。

かながわ森林インストラクターの会
120 余名の底力



植樹指導



グッズ大盛況でした



植樹開始しま～す！



パワー 爆発！！前夜祭



ミーティング風景



写真：広報部（鈴木松弘）

平成22年度

森林インストラクター・ブラッシュアップ研修会
<小学生向け森林講話の持ち方>

第1回

友谷 渉(1期)

データ

平成22年5月12日(水)9時~12時半

秦野市立堀川小学校体育館

財団 出席者 2名(鳥海・古館両氏)

インストラクター出席者 40名(内2名は講師)

講師 渡辺 孝(3期)受講者 5年生

87名(3クラス)

中島進市(9期)受講者 6年生

89名(3クラス)

(所要時間各45分・各学年担任も見学)

話し合い「これからの森林講話の持ち方について」
(50分)

定刻に堀川小学校の校長先生ご挨拶に始まり、財団、鳥海さんのオリエンテーションがあり、以下のような内容で今回のブラッシュアップ研修会は行われた。

1、森林講話(5年生対象)渡辺 孝 講師

「森林の役割・森林づくりの取り組み」

全国植樹祭 木の話

神奈川県森林面積

保安林

森林の荒廃

森林づくりの実績

森林の育成、保全の必要性

森林に降った雨の行方

雨水が森林の土壌を通った水

1日に使用する水の量

広い体育館の前方に、渡辺講師の話をもとに5年生の生徒87名が聴き、それを囲むように両側・後側から出席したインストラクター39名と担任の先生3名がそれぞれ見学する形で実施した。

表題10項目が順次スクリーンに映像と共に映し出され、補足を加えながらアツと言う間に時間が過ぎた。

生徒からは 1、木は1日にどれだけの量の二酸化炭素を吸っているか？

2、水はろ過されて良い水になるが、残った悪い性分はどうなりますか

と言う質問が出て、出席のインストラクターが説明を加える一幕もあった。

皆、静かに大変熱心に聴き入っており、森林への関心が高まったところで植物の葉の形状や、対生・

主催:(財)トラストみどり財団

互生についても言及されていた。

2、森林講話(6年生対象)中島進市 講師
「里山について」

人間生活の場に近い山=里山

里山の姿に着目・・・動植物の生きる場を守る。

森林の働き=「生物多様性」の環境を広げる努力を。

水の重要性=森林の役割・雨水・使用量等生き物との関り(食物連鎖)・光合成

6年生は年代が1つ上だけに、一段としっかりした態度に見え、皆、筆記用具持参で書きとめながら聴いて呉れていた。「木の寿命は何年ですか」の質問に(答え)「タラの木は8年」屋久杉は「・・・年以上」

3、話し合い「これからの森林講話の持ち方について」

はじめに、財団で学校関係を担当している古館さんから昨年までの過去3年間に講話の依頼が延べ14校からあった。環境保全・森林への関心高まりに役立っている。また、講師への要望としては、**ゆっくりと話して・クイズ等を取り入れて・現物に触れさせて・生徒達に発言を多くさせて・・・**等あり講話に使用する「紙芝居」(20枚セット)・里山の教育パネル・森林の実験セット・「水は森からやって来る」のパンフレット等保管してあるので大いに活用してもらいたいとのことでした。

講話を担当された方、普及啓発部会(森本さん)財団事務局、パワーポイントの画像制作に尽力された井出さん、関係者の皆様、有難うございました。堀川小学校には今後毎年機会を与えて頂けないものかと期待が高まるのですが、そのためにも、生徒達や先生方の反応を具体的に教えて頂きたいと思っている。

対象は誰であれ講話を行う機会があるので、より効果を上げるように務めたい。

学校の場合に限れば、対象学年のレベルを心持ち下げてアプローチするのが良いように思う。(噛み砕いて説明する。)そして何よりも**森林に親しみ、皆で森に行こう!!**という希望を抱いてもらえるような楽しさを吹き込んでみたいのである。

私の認識

野鳥その79

高橋 恒通

今月も亦、スズメ目ホオジロ科の留鳥（漂鳥）のオオジュリン（漢和名：大寿林、英名：Reed Bunting, 体長L = 16cm）についてご紹介いたします。

オオジュリンの棲息環境は、平地の葦原や草地など開けた処です。

体色は 共に夏羽と冬羽とでは相当に変わりますので、これを覚える事は大切です。

夏羽の は頭部と顎下は黒色ですが、白色の太い顎線、そして顎線は首の周りをぐるりと囲む太い白色の線と繋がっており、これが最大のポイントです。背面は茶褐色地に黒褐色の縦斑、下面は濁白色で脇に少し褐色の縦斑、尾羽の外側は白色です。冬羽の

は頭部の黒色が消え茶褐色ですが、白色の顎線はそのまま、そして背面の黒褐色が淡くなります。

成鳥は夏羽と冬羽共に、私の認識では の成鳥冬羽に近い体色です。而も、オオジュリンの冬羽の色合いは、ホオジロ科の野鳥の中で最も淡褐色で、冬枯れの葦の色に溶け込み、完全な保護色となっているのです。繁殖は主に北海道の湿原、青森や秋田の湿地の葦原、そして秋冬の非繁殖期には本州中部から九州の低地の葦原で、その茎に縦方向に止まり葉鞘（ヨウショウ）を剥がし中にはりついているカイガラムシ類を採食します。

私はオオジュリンの夏羽の は未だ観ていませんが冬羽は大井の東京港野鳥公園で枯れ草の中に居るのを何度も確認していますし、また、沼津の浮島沼の葦原の中でも観ております。

オオジュリンの地球規模での棲息分布域は、ユーラシア大陸の暖温帯ほぼ全域です。従って西はイベリア半島、英国、スカンジナビア半島から東は日本までをカバーしています。

鳴き声は、繁殖期の はゆるやかなテンポで「チッチュチチョ」とか早口で「チィチュチュチュイ」だそうです。地鳴きは「チュイーン」と聞こえます。

オオジュリンの次は、夏鳥のコジュリン（漢和名：小寿林、英名：Japanese Reed Bunting 体長L = 14cm）についてご案内致します。

体色は 夏羽が頭部、顎部共に黒色です。オオジュリンの 夏羽との最大の相違点は、白色の顎線がコジュリンには無く黒一色の頭部だと私は認識しております。但し、コジュリンの 夏羽頭部の眼の上に小さな白斑のある個体も居るそうです。

冬羽と の体色は非常に似ていて、その識別はむつかしいと私は思っていますが、残念ながらコジュリンは未だ観てません。

棲息環境は平地から山地の草原、湿地の葦原川原などで、繁殖地が本州中部と北部、そして九州の一部と言う具合に局地的です。

少数が越冬するそうです。

採食は繁殖期は昆虫類やクモ類、非繁殖期には葦原よりも草地で草の種子などです。

囀り声は丈の高い草に止まってホオジロに似た“チョツピリチュリリッピッ”と間隔をあけ繰り返し鳴くそうです。

世界地図上でのコジュリンの棲息分布域は、中国東北地方の限られた地域で繁殖し、越冬は中国の福建省 浙江省、江蘇省辺りと狭い地域です。その一部が我国に夏鳥として飛来するのです。

ところでオオジュリンもコジュリン共に漢和名の中の“寿林”即ち“コトブキの林”は森林の保全を目的のひとつとする我々「森林インストラクター」にとっては大変に意義ある野鳥と思いませんか・・・。

< 参考資料 >

- ・日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑7
写真・解説/叶内拓哉、分布図・解説協力/安部直哉、解説（鳴声）/上田秀雄
山と溪谷社
- ・フィールドガイド 日本の野鳥、野鳥ブックス
高野伸二著、（財）日本野鳥の会
- ・鳥 630 図鑑、（財）日本鳥類保護連盟

頭高山での探鳥会 自然観察部会

自然観察部会のブラッシュアップの一つ“探鳥会”を5月8日（土）に行いました。天気予報が二転三転してやきもきしましたが、最終的には五月晴れに恵まれさわやかな風の中で、高橋恒通、武本弘次お二人の講師の元、16名の参加者を得て、渋沢丘陵の一角にある頭高山（づっこうさん）で夏鳥の観察会を行いました。

山笑う季節も過ぎ、目にも鮮やかな新緑に包まれ、すっかり装いを新たにした清々しい森の中で、鳥の声はあちこちから聴こえてくるのですが、なかなか姿が見えませんでした。

資料の中にある“ききなし一覧表”と高橋講師の絶妙な鳴き声の説明を頼りに、これはオオルリだ、キビタキだ、アオゲラだ、ヤマガラだと聴き分けながら、新緑の雑木林の中をゆっくりと進んで行きました。既に来ているはずのジュウイチ、ツツドリ、カッコウなどの姿は勿論、声も聴くことが出来ませんでした。

それでも、葉っぱの間からオオルリ、キビタキ、コゲラ、アカハラ、ヤマガラ、カワラヒワなど綺麗な姿を垣間見ることができました。最後街中に出てイソヒヨドリの見送りを受け家路に着きました。見たり聴いたりした鳥は26種類にのぼりました。

ここ頭高山一带は、厚木のタバコ生産のために使われる落ち葉のために維持管理されてきたクヌギ、コナラを中心とした雑木林（落葉広葉樹林）が多く、林床植物が非常に豊富な場所で、鳥の声を聴きながら贅沢な自然観察もできました。

山頂にはホタルカズラの群落があり、藪陰には



ホタルカズラ

キンランが守られており、フデリンドウなども草陰にひっそりと咲いていました。ウバユリの群落もあり花の時期はさぞ素晴らしいことでしょう。

道々では、オドリコソウ（白色）、ツルカノコソウ、アマドコロ、ハウチャクソウ、ナルコユリ、アカショウマ、ヤマハタザオ、オケラなど



ハナイカダ



ホオノキの蕾

樹木では、コゴメウツギ、マルバウツギ、ミツバウツギ、マルバアオダモ、ウワミズザクラ、ヤマフジ、ホオノキ、ハナイカダなど沢山の植物を観察することができました。イヌシデの虫こぶも見つかりました。

とくに、スズメノエンドウ、カラスノエンドウ、カスマグサの違いをそれぞれ見比べながらじっくりと観察したり、スズメノヤリの種子の色の素晴らしさに感激したり、ムラサキケマンの種子の散布方法や種子についてのエライオゾームなども確認でき、味まで確かめることができました。更には星状毛、鱗状毛など顕微鏡の世界にまで入りこむことができました。

今回は、野鳥の観察だけに終わることなく、ゆっくりと植物の観察もでき、鳥と植物の関係（食物連鎖）にまで話が発展した素晴らしい探鳥会となりました。

写真：広報部（村井）

どうぶつシリーズ 5
やどりき水源林は「びっくり箱」

滝澤 洋子 <5期>

山の緑が濃い色になり始めた頃、毎年思い出すやどりき水源林での一場面があります。まずは下のスギ林内の写真を見て下さい。何かが隠れているのですが、わかりますか？



5年前の6月、以前ニホンカモシカのため糞を見つけた付近で、森林整備後にまた糞が見つかるかと期待して、広い斜面を動物班メンバーで手分けして探していました。地面を見ながら登って行くと、テイカカズラに似た葉が所々にあります。何だろうと思いつつも、今日は糞探しと見送っていると、メンバーの一人から声がかかりました。「これ、なんだろう。」皆がそちらへ集まりました。それは先ほど私が見送っていたものと同じ植物でした。もうひとつ似ているがちょっと違う植物も近くに見つかり、皆で植物観察になりました。なかなか結論に至らず、皆が覗きこんでいる輪からちょっと目をそらすと、薄茶色に白い斑点が入った綺麗な毛並みが目に飛び込んできました。なんと小鹿が私から1mほど先で地面に伏せ、不安げにこちらの様子を伺っているではありませんか。間伐で倒され、枝払いされたスギが斜面に平行に置かれているその間に、落ちた枝を集め、巣のように囲んだ中にいます。さらに小鹿の上を斜めに1本の枝が渡されています。慌てて手で皆に知らせました。声を出したり動いたりすれば、小鹿がびっくりしてしまうのではないかと思ったのでした。皆の視線が小鹿に注がれると、小鹿はさらに大きな目をしてこちらを見ていました。でも頭はしっかり地面につけ、「動いちゃいけない。」と思っているようにみえます。

さてどうしたものか。この仔はどういう状況なのだ。病気なのだろうか。保護しなければならぬのだろうか。いろいろ意見が出ましたが、とりあえずびっくりさせないように、あまり動かずに写真だけ撮り、以前大勢で一斉に動いてムササビをびっくりさせた時を思い出しながら、今度は少しずつそっとその場を離れました。

しばらく歩いてから、あの小鹿はどうしているだろうと、誰となく話始めました。やっぱり保護するべきだったか。いや、自然に任せよう。そうだ、それが一番だ。各自が心に言い聞かせながら、山を下りて来たのでした。

後でニホンジカの研究をしている方に尋ねてみました。生まれたばかりの仔はまだ親と一緒に歩けないため、母親は少しの間あのように仔を隠しておき、時々お乳を飲ませに戻って来るのだそうです。なので、保護などと言って連れてこなくて正解だったのだそうです。

病気でなかったのですね。おびえた目をしていましたが、どんなに怖かったですよ。母親が戻ってきた時あの仔はきっと母親にこんな報告をしたことでしょう。

「ママね。さっき大きな変なのが、たくさんそばにきたんだよ。僕、ママに言われたように、じっとしていたよ」

巣のようになっていたのは、母親が枝を集めて大切な仔を隠していたのでしょね。



あの仔は今どうしているでしょう。今年の春先、また水源林のスギの樹皮がシカに齧られてしまいました。複雑な気持ちです。

活動短信

4/24～5/14

自然観察部会 22年度第1回 森林探訪
「新緑の三廻部林道からやどりき水源林を歩こう」

4月24日(日)

80名(応募104名)

河野

黒澤、宮本、久保、三浦、野田、
内野、女川、杉崎、橋本、海野、
小林、後藤、松永、鳥飼

春になったと言うのに暑くなったり寒くなったりの繰り返しの中で、比較的天候に恵まれたはずの予報でしたが、お昼にはにわか雨に降られてしまいました。

寄バス停から三廻部林道までの道は登り一方の山道です。登り始めの茶畑では新芽が出始めたばかりで、八十八夜の茶摘にはとても間に合いそうもありません。それでも山々の樹木は徐々に芽吹き始めており、向いの山の笑っている姿がはっきりと分かり、落葉樹林(雑木林)と常緑樹林(植林地)との利用による位置関係も良く分かります。

また、雑木林の中では林床植物、低層植物、亜高層の植物と下から順に葉が展開し始め、高層木が活動を始めたばかりの様子が観察できました。

例年ですと、ヒメウツギ、マルバウツギなどが満開になっているときですが、今年の天候不順で蕾がやっと膨らみ始めたところでした。でも、花期の長いヤマブキがいたるところで見られ、ヤマザクラも残っていて、それなりに楽しむことができました。

植物の話から、山に降った雨水は地中にしみこみ、樹木を育てながら川に流れ出し、長い旅をして我々の家庭までたどり着いている説明などを加えて、参加者に自然の大切さ・頼もしさを理解してもらいました。(記 8期 野田)

鈴鹿かまぼこ新入社員研修

日 4月27日(火)10時~12時 雨
 場 やどりき水源林
 参 22名 男性6名・女性14名・(引率2名)
 イ L渡辺、波多野、

天気予報より早く雨となったため、引率者と相談し間伐を「恵水の森」と名付けられたパートナー林の見学と、屋根の下での丸太切りに変更した。間伐作業の手順を説明し、丸太に受け口を作り、追い口を切って見せた後、各人が丸太切りに挑戦した。女性の方が要領の呑み込みが早いとの印象であった、小学校の図工で鋸を使った時に真面目にやっていた影響?その後先方の要望に従い、
 ・森の大切さ ・間伐の必要性 ・森がきれいな水を育む仕組みについて水の消費・二酸化炭素の問題を中心にして講話を行った。

二十歳前後の若者が熱心に話を聞き、丸太切りに興味を示すさまには好感がもてた。

短い時間であったが無事故で終了できた。

(記 11期 波多野)

高校生による植樹

日 5月13日(木)13時~15時 晴れ
 場 宮ヶ瀬ダム鳥居原園地
 参 都立桜町高校1年生280名と教師7名
 他 (財)宮ヶ瀬ダム周辺振興財団5名
 イ L小野、佐藤(武)、白畑、
 斉藤(彰)、

高校生の奉仕活動の一環として、ドウダンツツジ140本の植栽が、好天に恵まれた鳥居原園地で行われた。13時、開会式に引き続き生徒代表35名に対し、財団職員・インストラクター各4名にて作業手順と方法のレクチュアを行う。この35名が各班(40名*7班)のリーダーとして我々4名と共に植栽指導に携わることで作業を開始する。現地は法面小段部での補植の為場所が狭く、40名に対して的確な指導が行き届かない面も有ったが、特にトラブルもなく定刻までに終了した。閉会后我々4名で作業後の状態をチェックし一部手直しを実施したが、高校1年生の初体験の作業であり現場条件等を考慮すれば充分及第点との感想を持った。

(記 7期 小野)

森林&尾瀬講話

日 5月13日(木)14時半~15時20分 晴れ
 場 横浜市立軽井沢中学校
 参 2年生 77名
 イ 小沢、

森林の環境保全と海洋資源の保護などの関連性の話を街頭キャンペーンで使用する紙芝居を使いながら話をしました。尾瀬の講話については、尾瀬が単独で国立公園として誕生した事や、入山にあたってどの様な心構えや装備を必要とするかを伝え、一人一人が尾瀬に関連した花、動物、山、

等の項目に興味や目的を持って出発し尾瀬の自然をたっぷり楽しんで来てくださいとお話をさせて頂きました。

(記 9期 小沢)

パートナー林活動 新入社員の間伐体験

日 5月14日(金)10時半~12時半 曇り
 場 やどりき水源林
 参 日揮株式会社 社員 49名
 県 森林推進課 小司、内田、
 イ L戸谷、高橋、佐藤、青木、波多野、

10時半に休憩棟前の広場に集合し、作業内容と注意事項の説明を行う。参加者は1グループ5人構成の10グループに分けられているので、各インストラクターと担当グループの紹介を行い、準備体操の後、グループ毎にノコや作業道具を携えて間伐場所へ向かう。参加者の殆どが森林づくりの経験が無く、作業経路を外れて道なき道の斜面を進んで行くのに歩行がままならない状態であったが、若者らしく、皆、楽しみながら斜面と闘い、時にはジョークが出るほどであった、鋸の扱いに慣れてないし斜面での作業の為、汗をかく割には切り進まないが、何とか体力に任せて各グループ1本を伐倒。しかし、今回の場所は間伐作業が初めての所なので、殆どの伐倒木が枝掛かりとなったが、若者のパワーで強引に引き倒し、枝打ちや玉切り等の倒木処理も苦労しながら新しい経験を話題の1つとして楽しんでいた。

生憎の曇り空でしたが、瞬時、雲間から日が出て、伐倒木の切り株に日が差した時にどよめきと感嘆の聲が上がったのは、初めての間伐作業を通じて森への営みに対しての何かを感じた事でしょう。作業場へ向かう時とは異なり、作業を通じてインストラクターを身近に感じて頂けたのか、間伐作業からの興奮なのか、帰路は若者からの質問や問い掛けで倉庫までの距離が短すぎました。

<課題等> 申し送り事項

今回は間伐対象木の選木を事前に行わず当日の集合時間前に行ったので、作業エリアが充分に取れずに50人以上の大人数が近距離で作業する状況になりました。幸い、事故や怪我は有りませんでした。傾斜地での作業には落石も頻繁です。森林推進課とインストラクター・リーダーの事前選木の徹底を提案いたします。また、1人のインストラクターで2グループを担当する派遣依頼は今後も出てきますし、伐倒木の掛かかり木処理でインストラクターが他のグループに注意を払えない状況も出てきますので、リーダーは担当グループを持たずに動き回れるような人数構成を提案いたします。

(記 6期 戸谷)

やどりき水源林
ミニガイド

5月のトピックス

水源林に入ると、カジカガエルの鳴き声とオオルリのさえずりが迎えてくれました。カジカガエルは、川の流れの石の上で鳴いています。石と色が似ているのですが、探してみてください。オオルリは高い木の梢で鳴いていることが多いので、こちらも探してみてください。

6月の水源林



モミジイチゴの食べ放題

「森の案内人」情報

実施時間：毎週土曜・日曜・午前10時・午後1時1～2時間程度(12月1月2月休止)

集合：水源林入口ゲート前

内容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。

参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

問合せ：(社)かながわトラストみどり財団 TEL:045-412-2255

fax:045-412-2300

●ホームページ：<http://www.ktm.or.jp>

●E-mail:midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

標本作り入門講座
(講義と室内実習)

7月18日(日)19日(月・祝)の2日間 各10時～16時
哺乳類と鳥類の体の仕組みについて解剖を通して学んだ後、仮はくせいを作ります。(全日程の参加が条件) 締め切り6/29(火)
対象：大学生、大人、教員
問い合わせ：生命の星地球博物館
TEL：0465-21-1515

森のなかま原稿募集

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。写真、スケッチなども募集しております。

送先

< 配信希望・手書き原稿送先 >

森 義徳

〒232-0053

横浜市南区井土ヶ谷下町16-3-202

Tel/090-5433-7784Fax/<株リコー・森

宛045-590-1910>

Mail: myforest@yha.att.ne.jp

< メール原稿送先 >

【本誌】村井正孝

〒226-0002

横浜市緑区東本郷6-22-1-420

Tel/Fax: 045-476-4112

Mail: murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】金森 巖

〒227-0038

横浜市青葉区奈良2丁目10-5

Tel/Fax: 045-961-6695

Mail: i_kanamori@morinotabibito.com

【CCで】森本正信

〒194-0001

東京都町田市つくし野2-13-7

Tel/Fax: 042-796-6011

Mail: morimoto@bikkuri.co.jp

原稿の締切は毎月20日です。

編集後記

日帰り森林ツアー毎月やっています。5月は所有する千葉の山で間伐+テーブル作り、道具はチェーンソーだけで作りました。6月はハンモック体験、快適に昼寝ができるように現在試行錯誤で練習中です。(金森)

口蹄疫で、家畜が大量に処分されている。己では、何も防衛出来ない家畜達、何も知らされず、命を絶たれる、こんな悲惨と思われるのは、私だけだろうか。伝染を防ぐ事は、結果的に家畜を助けるのだが、やりきれない。(鈴木松)

全国植樹祭無事に終わって良かったけれど、心残りが一つ、美智子様にお会いしなかったです。(鈴木朗)

通勤途中の草むらから毎日コジュケイの声が聞こえてきます。巣があるのかなと思っていたところ、今日は目の前に姿を見せてくれました。朝から得した気分になりました。

(井出)

電子配信ユーザーがまた増えました。ありがとうございます。まだ活用いただいていない皆様、まずは電子メールの使い方から試してみてください！(森)

全国植樹祭について本誌「森のなかま」3月号に森林チーフインストラクターの飯村さんが詳しく述べられるように、61回に至るまで多くの方々の汗と知恵と努力が結集した歴史的なものであり、森林インストラクターとして今回チームの一員で参加できたことは私を指導して頂いた多くの方々に微力ですが、恩返しが出来たような気がします。(村井)

年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。

振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(頒価 200円 送料共)

編集人：村井正孝

広報部：井出恒夫(HP) 金森 巖

鈴木松弘 森本正信 森 義徳

鈴木 朗 上野潤二 原田智也

後方支援：川森健司・柳澤千恵美



森林インストラクター・ブラッシュアップ研修会/秦野市立堀川小学校

3ページに関連掲載

写真：広報部(金森 巖)